

事業の背景・目的

大台町は、一部が吉野熊野国立公園に、全町がユネスコエコパークに指定されている。豊かな自然環境を有している利点を生かし、既に重要性が認定されているエリアの隣接地内が、将来的に30by30の達成に貢献できるようOECMに登録されることを視野に入れ、生物多様性の保全再生に資する活動を実施する。また、持続可能な地域資源の活用として、一方的な放流だけに依らない遺伝的多様性に配慮したアマゴの自然繁殖できる河川作りを、大学の研究者と連携して取り組む。

事業の内容

事業① 生物調査 ・文献調査10回 ・実地調査12回 ・魚類調査5回	事業② アマゴが自然繁殖できる河川作り ・調査4回（夏前と秋に各2回） ・潜水目視調査1回 ・調査報告会1回	事業③ 生物調査員育成のための勉強会及び啓発活動 ・大台町生物調査員養成講座2回（講師2名・参加者8名、講師2名・参加者11名） ・実地調査5回（内2回は養成講座と併せて実施）	事業④ 協議会の実施と生物多様性とネットワーク構築についての研修会 ・協議会2回 ・研修会1回（講師1名・参加者22名）
--	--	---	---

得られた成果

・専門家を講師に招いた調査員養成講座や研修会を継続して実施し、実際に調査に関わっていただける方や参考書籍を献本してくださる方もでき始めている。生物調査員の方のご協力もあり、大台町生物目録（6分類+α）や大台町で絶滅の危機に瀕している生き物リスト（植物）が出来上がった。この活動を継続し、より大きな輪を作り、それらの調査データをもとに、大台町版レッドリスト全種、レッドデータブック及びガイドブック、大台町生物多様性保管理指針の策定を目指していきたい。

・アマゴの自然繁殖調査においては、今年度から地元漁協さんにも協議会員に加入いただき、三重大学や生物調査員の方々の協力を得て個体数調査及びその結果の報告会を実施した。持続可能な地域資源（遺伝的多様性や自然繁殖ができる河川作りなどにも配慮する）のブランド化として、最終的には生物多様性に配慮した内水面漁業が最も高い経済効果を生むということに繋げたい。

